

# はいふ

平成二十八年

## 謹賀新年



京北商工会会長 矢谷仁史



- あ あ友よ
- つ なぎ (繋ぎ) 伝えるこの想い
- ま さにこの時
- る ずう (流通) の時

※「るずう(流通)」…「るつう」とも 意味/教えを伝え広めること。また、教えが広く行き渡ること。(「Egoo 辞書」より引用)

## 青年部長ご挨拶

みなさま新年あけましておめでとうございます。平素は青年部の活動に対し格別の御支援を賜りまして誠にありがとうございます。

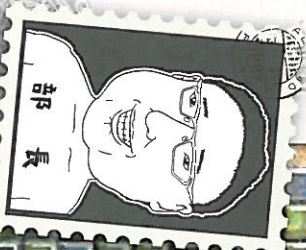
本年度より、部長の大役を仰せつかっておりますが、青年部部員の「元氣」「やる氣」「勇氣」そして「笑顔」に支えられ、もっとがんばればよムチを打たれてきた半年でございます。

下記にもありますように、恒例になっております諸行事でいつもテーマにあがるのは「青年部だから出来る事」、そして「新なる挑戦」。今現在 vitality 溢れる 20代～40代の20名のメンバーがいます。

夜な夜な会議を開き、あーやないこーやないと時間の半分は内容と違う話しをしながら、ちよっとでも地域のみなさんに喜んでもらいたい、地域活性に繋がりたい、強いては自分のビジネスにも繋げ地域に貢献したいという思いで活動しております。

本年も、皆様（特に部員のご家族）の御理解、御支援賜りますようよろしくお願い致します。

京北商工会 青年部部長 大下 孝広



青年部  
だより

## 全国商工会 青年部主張発表大会

青年部では、全国商工会青年部主張発表大会に若手の小倉一記が出場しました。

『自分が常に大事にしている、わび・さびの心でみた仕事のこと、そして青年部に入って感じたこと』をバシッと主張されました。

小倉君が大勢の人を前にして、堂々と主張を繰り広げるのが本当に誇らしくて嬉しかったです。

結果は、福知山市、南丹市、京丹波からなる中部アロックス選をぶっつきりの一位で勝ち抜き、京都府大会で準優勝！あと一歩で近畿大会でした。

小倉君、本当にお疲れさまでした！



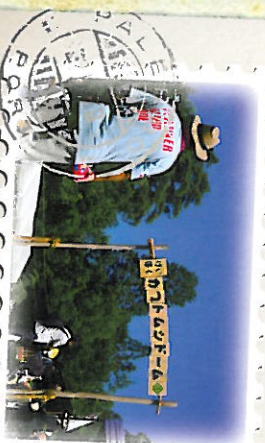
## カブトムシチーム

今年で十周年となるカブトムシチーム。青年部一丸となり昨年より、さらに良いものへ精神で挑みました。



今年はメインキャラクターの「カブトマン」の登場で子どもたちが大喜び！「カブトマン」と相撲「企画でカブトマンに勝利すれば商品GET！」

来場者数が年々少なくなってきましたが、青年部の大先輩方が始められたイベントを来年以降も盛り上げて行くとおもいます。



## ふるぎとまつり

今年の「青年部ふるぎとまつり」のテーマは企画班・広報班に別れ、意見を交えながら進めるといふ新しい試み企画班で、そば・カレー・はまき・焼き鳥など新しい部員さんの意見あり連日熱い会議を行い、広報班ではお店のコンセプトやレイトを考えました。

お店の二週間前には試行錯誤しながら試作品を皆で作り、これならいけると大盛り上がり！売れるだろうという気持ち半分、売れ残ったらどうしようという不安半分で当日の朝を迎えました。

本番当日、皆で声を出し必死に販売した結果、見事完売！青年部全員で団結すればこれだけの事ができるのだと実感したふるぎとまつりでした。



## ～京北のお買い物は商品券で!!～

商工会の商品券が、お家に眠っていませんか。

そろそろ起こしあげましょうか。



## 女性部長の挨拶

新年あけましておめでと  
うございます。

今年度の役員改選により  
四月から女性部長の大役を  
お引き受けすることになり

ました。

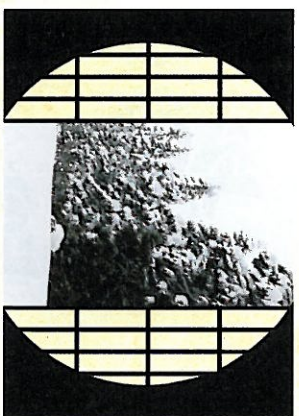
今日までの事業は、部員

の皆様のお力を借りて実施

することが出来ました。本

当に京北の女性力は強いと

日々実感しているところでござい  
ます。



女性部では新規事業の立ち上げを何度も議論

した末、四月十六日(土)・十七日(日)に常照皇寺

のふもとの「ペンション上桂」さんをお借りして「北

山杉の森のカフェ」を開催いたします。内容は、女性

部事業所の商品展示・販売、野点等の予定です。多く

の方のご来店を心よりお待ち

申し上げます。

今後とも微力ではありますが

が京北の活性化のお役に立て

るよう励んでまいりますの

で、尚一層のご協力を賜りま

すようお願い申し上げます。



# 女性部 だより

京北商工会 女性部部长  
渡邊 多津子

## 窓辺から

京北商工会の「ホームヘルパーステーション  
さくら」は、事業をはじめから10年になります。

女性部では、ボランティア事業として、毎年1回さくら  
利用者の方へプレゼントを贈っています。昨年も手作りカレン  
ダーを作成し、配付をヘルパーの方にお世話になりました。

手作りカレンダーのプレゼントは、利用者の方に好評で、今回で3年  
目になります。女性部役員一人一人が1ページずつ受け持ち、その季節に  
あった絵を描いたり、コメントを入れたり工夫をこらして作りました。  
絵が苦手な役員は、家族に手伝ってもらったり、シールを貼ったり悪戦苦  
闘でした。

表紙は、自然豊かな京北をイメージしたロゴを女性部で作リ、杉板にレー  
ザー加工で印刷しました。さくらの利用者の方に、月がかわり、カレン  
ダーをめぐっていただくこと  
を楽しみにしていただけれ  
ばうれしいと思います。



けいほくの

しにせの

おみせを

おみせします



塩治軒



大正五年、高乗喜一さんによつて創業され、今年平成二十八年二月三日で百年になるとのこと。喜一さんが塩治という和菓子屋さんにて十五年の修行の末、のれん分けされ「塩治軒」といふ名前になったそうです。

「いかにいますか」創業され、今年平成二十八年二月三日で百年になるとのこと。きや友がき雨に風につけて、喜一さんが塩治という和菓子屋さんにて十五年の修行の末、のれん分けされ「塩治軒」といふ名前になったそうです。

二代目喜与司さんは、中学校卒業式の次の日に修行に出され、初めの頃はふるさとの二番の歌詞

現在四代目 春久さんに受け継がれ、伝統の味を守り続けておられます。元旦が休みだけで年中営業されておられます。とても一本筋の通ったお店

ある印象を受けました。

個人的にいうと三代目喜与司さんが考案された「きび餅」は好物で、どこにも負けない商品だと思います。



# 料理旅館 すし米

すし米女将よりコメント頂きました。

初代が周山の地に移り住んできたのは明治の終わり。(確かな文献が残っていないので定かではありません)

当時は裏の上桂川に材木を運ぶための筏が流れていました。その筏師さん(の宿場とし

て寿司でおもてなしをしていた様です。初代は米次郎でしたの

で、すし屋の米さんで「すし米」が、それだけに一組のご要望にお応え出来る様、料理と室礼、おもてなしがしつかりツクを組んでい

ます。その後、料理旅館となり只今四代目に引き継ぎ、四季折々の会席料理など、純和風のおもてなしで京北内外のお客様をお迎

えています。先代の頃は、景気も良く商売も順調だった一方、何度も水害に遭い、座敷や庭を流されたりの時代でした。その間、地元の皆様には大変お世話になった話

はよくよく聞いてきました。



私達当代は創業百年を超えこの時を受け継いだ事に責任を感じ、今までのご恩をお返ししながら、古き良き物を残し、現実もしつかり踏まえた料理旅館を

営んでいます。また、和の文化を大切に伝え、大好きな京北をアピールできる店でありたいとも考えています。

家族経営の小さな料理旅館です。が、それだけに一組のご要望にお応え出来る様、料理と室礼、おもてなしがしつかりツクを組んでい

ます。その後、料理旅館となり只今四代目に引き継ぎ、四季折々の会席料理など、純和風のおもてなしで京北内外のお客様をお迎

えています。先代の頃は、景気も良く商売も順調だった一方、何度も水害に遭い、座敷や庭を流されたりの時代でした。その間、地元の皆様には大変お世話になった話

はよくよく聞いてきました。



よう、どうぞ宜しくお願致します。今後とも皆様のご利用を賜ります。四代目に引き継ぎ、四季折々の会席料理など、純和風のおもてなしで京北内外のお客様をお迎

# 島 清



黒田で曾祖父、清太郎さんが現在お魚料理を営まれます。このお魚が目当てで『このお魚やないとおかん』というお客さんもおられるそうです。

月・火・金・土曜日は車で井戸屋さんの仕出しの仕出し大野(小塩・初川をバスで訪問販売。魚をはじめ、食料品全般、乾物、果物を取り扱っております。その父親の利齋の箱寿司も作っております。

太さんの時代に現在の場所へ移られたそうです。お客さんからは『美味しかった』と必ず言われるんです。『島清』の由来は、現店主の利齋と奥さんはおっしゃいます。

『主人も』まあ、料理屋ってまじださけ、味にはね』とニコッと笑って控え目に言われたのが、とてもかこよかったです。

ご主人を取材中も店の奥からずっと見守り、ご主人が困らばつた時に店の奥から助言をされる奥さん。二人の様子をみてとても暖かい気持ちになりました。



御年七十歳になられた今でも月・金の仕入れの日は朝三時に起き、中央市場へ帰ってきて

# 事業所訪問



## 有限会社 永岡電機 さん

今回の訪問事業所は京北下中町にある有限会社永岡電機さんです。店主の永岡昭さんの父郁彦氏が美山町知井中で創業。その後、中店、宮島店、京北店へと出店。下中の京北店は三坪の店からスタートされ七年后には現在の広い店舗へと移り今年で四〇年になります。

その四〇年を振り返ってみますとバブルの時にはカラーテレビが売れて売れて三店舗合わせ売り上げが一億円近くにもなったこと。今は夢物語ですと笑ってお話いただきました。

その後、大型店の出店で小売店では小さくものは電池から、大きなものは冷蔵庫、テレビまで売れなくなり大きな打撃を受けられたそうですが、地デジ化の時は薄型テレビに買い替える人が多く、それにかかる設置工事等大変忙しかつたそうです。

かかりつけの医者が必要ないように、かかりつけの電気屋さんも必要です。電気が切れた、テレビが映らない、洗濯機が動かない、と電話がかかると夜でも駆けつけて行きますとのこと。心強い限りです。

また地域の行事には率先して参加しておられ、ふるさとまつりや夏まつりには音響設備を担当、ほくほくカード会の副会長もされておられ、アグロの解体は例年大好評となっております。

娘さんお二人と、ということで後継者が無いとのことですが、これから十年、十五年とお客様とのつながりを大切に商売をしていこうと考えておられるとのこと。六十四歳！まだまだこれからです。長く事業を

やっていくにはチャンスもピンチもやってきます。チャンスはどう活かすか、ピンチをどう乗り越えるか、すべて自分で乗り越えられるかどうか。お金のまわりは良い時は「借りてくれ」とまで言ってくれるが、悪い時はなかなか・・・です。とおっしゃっています。人口が減少の京北地域では電化製品も限りある製品となり買い替えが中心となっているとのことでした。

最後に四十一周年目を迎えるに当たり抱負をお聞きました。これからはLED照明に力を入れたとのこと。遅かれ早かれどの家庭も全部LEDに替えられることになるでしょう。価格も大変安くなってきています。電気料金も軽減されますし省エネにもなります。是非近くの「電気屋さん永岡電機」の昭社長にアドバイスを受けLEDに変更されてはいかがでしょう？

四十年の歴史の中で、松下幸之助さんにお会い出来て握手をしていただいたことは一生の思い出となっておりますとのこと。

いろんなお話を伺いましたのですが、充分に書くことは出来ませんが、有ん限会社永岡電機さんの益々のご発展をお祈り申し上げます。

